

大会名 Competition	第26回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会			
NO. M-110	Year	Month	Day	Time
	2013	年	5月	4日 16:40
場所 Place	能代市総合体育館			



チームA 能代工高 89 ●	<table border="1"> <tr><td>25 1st 28</td></tr> <tr><td>13 2nd 33</td></tr> <tr><td>29 3rd 11</td></tr> <tr><td>22 4th 20</td></tr> <tr><td>OT</td></tr> </table>	25 1st 28	13 2nd 33	29 3rd 11	22 4th 20	OT	チームB 市立船橋 92 ○
25 1st 28							
13 2nd 33							
29 3rd 11							
22 4th 20							
OT							

主審:Referee
北沢 岳夫 岩手県
副審:Umpire
久米 克弥 秋田県
水木 順仁 秋田県
テーブル・オフィシャル:Table officials
一関修紅

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	松本大河	CAP	19	2	6	1	2	4	×	阿部諒	CAP	13	1	3	4	4
5	×	佐々木健登		24	0	11	2	3	5		川島翔吾		-	-	-	-	0
6	/	安保友貴		5	0	2	1	1	6	×	高澤淳		30	6	4	4	2
7	×	小田桐匡志		30	2	12	0	4	7	×	山本健太		17	0	8	1	1
8		三根一求		-	-	-	-	0	8	/	榎雄大		0	0	0	0	0
9	×	砥綿啓伍		0	0	0	0	0	9	×	佐々木弘太		0	0	0	0	3
10	×	荒木直		2	0	1	0	4	10		柘植晴登		-	-	-	-	0
11		金久保翔		-	-	-	-	0	11	/	山崎豊		2	0	1	0	4
12	/	湊俊樹		0	0	0	0	1	12		八重澤洋平		-	-	-	-	0
13	/	長谷川暢		9	1	3	0	1	13		藤本利樹		-	-	-	-	0
14		斉藤大輔		-	-	-	-	0	14	/	戸田貴太		0	0	0	0	0
15	/	中村碧杜		0	0	0	0	0	15	×	青木太一		21	0	8	5	2
16		渡邊竜也		-	-	-	-	0	16		杉田涼		-	-	-	-	0
17		盛實海翔		-	-	-	-	0	17	/	平良彰吾		9	1	3	0	1
18	/	小室望海		0	0	0	0	0	18		山谷雄大		-	-	-	-	0
コーチ		佐藤信長							コーチ		近藤義宙						
Aコーチ		栄田直宏							Aコーチ		相川輝						
合計				89	5	35	4	16	合計				92	8	27	14	17

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1Q、両チームともにマンツーマンディフェンスでスタートする。どちらもバックコートからガードにプレッシャーをかけてミスを誘う。市立船橋#6高澤、#4阿部が連続3Pで最初の波を作るが、能代工は#5佐々木がスローイン後の速攻でレイアップを決め、速さを前面に出して競い合う。その後は市立船橋#6高澤、能代工#5佐々木を中心にシュートを決め合いどちらもペースを譲らない。アウトサイドシュートを決め先行する市立船橋に、能代工がランニングプレイでついていくという激しい攻防が続き、1Qは25-28で終了する。

2Q、能代工はフルコートゾーンプレスに変え、さらに速い攻撃を仕掛けようとするが、市立船橋も3-2ゾーンにしてレイアップをさせない。残り6分、市立船橋は攻めあぐむ能代工のお株を奪うような速攻で29-36とすると、さらに#6高澤のこのゲーム4本目の3Pなどで一気に離し、30-41となったところで能代工はタイムアウト。しかしその後も能代工はアウトサイドが全く入らず市立船橋の得点が止まらない。能代工は残り3分余りで再びタイムアウトを取りマンツーマンディフェンスに戻すものの、流れは変わらず、結局38-61と市立船橋が大差を付けて前半を終了する。

3Q、2Q同様両チームともにゾーンディフェンスでスタートする。能代工は前半とうって変わり市立船橋にシュートを打たせない素晴らしいディフェンスを繰り広げ、#5佐々木のジャンプシュートなど、連続得点で50-64と差を縮める。苦しい市立船橋は残り6分でタイムアウトを取りインサイドを起点としたオフェンスをするが能代工の大波を防げず、前半不調だった#7小田桐のシュートも決まりだし、67-72と市立船橋5点リードで3Q終了。

4Q、出だしからバスケットカウントで引き続きペースを作る能代工に対して、残り7分、市立船橋はタイムアウトを取り3-2ゾーンから2-3ゾーンに変更すると、71-80と再び流れを変えたかにみえたが、能代工は止まらずひたすら走り、ついに残り3分82-82、同点に追い付く。残り2分、市立船橋は果敢にゴール下を攻め84-90とゲームを決めにかかるが、能代工は3回目のタイムアウト後に#4松本の3Pでまだ終わらせない。しかし、市立船橋はラスト18秒フリースローをしっかりと2本決め、89-92で逃げ切った。